

【全建協連】別冊Vol.15

自信と誇りを着る



Uniform Design Project Publication & Demonstration

全建協連ユニフォームデザインプロジェクト



発行・監修

全国建設業協同組合連合会

■ プロジェクトの立ち上げと、取組への意義

少子化による人口減少時代を迎えているわが国は今、生産性向上が最大の課題となっています。なかでも建設業界は、『長時間労働の是正』や『ロボット化・ICT化』といった他産業が活発に取り組んでいることとあわせて、『週休2日』や『危険・きたない・きつい』といった3Kからの脱却』など他産業にとっては当たり前のことも同時に改善しなければならない状況にあります。

全国建設業協同組合連合会（以下、「当連合会」という）は、1975年7月に「中小企業等協同組合法」に基づき設立された団体で、「相互扶助の精神に基づきスケールメリットを活かした共同事業を行うことにより、会員組合及び所属員の経済的地位の向上を図る」ことを目的としています。

建設業界には、規模や地域などが異なるさまざまな団体が存在しますが、協同組合の最大の特長は、直接的に事業に携わることができる点です。

多くの建設業団体がさまざまな「働き方改革」を推し進める中、団体の特長を生かした当連合会ならではの「働き方改革」へのアプローチとして立ち上げたのが、『ユニフォームデザインプロジェクト』です。

共同購買を手がけてきた実績を踏まえ、「お洒落でかっこいい」と感じられる建設現場のユニフォームを提案すれば、身の回りから「働き方改革」をスタートすることができるのではないか、というのが発想の原点で、「誰もが着たくなるユニフォームで、業界のイメージを刷新！」をプロジェクトの目的に据えました。

プロジェクトの目的

- 作業着で工事現場をカッコよくプロデュース
- 作業着でも電車に乗れる・街を歩ける
- ファッションから建設業への理解促進
- 企業のイメージアップ
- 社員のモチベーションアップ
- 工事現場での視認性向上
- リクルートの有効なツール



■ 東京モード学園とのタッグ

魅力的なユニフォームデザインの提案は、業界団体に限らず、各種メーカーや建設会社などが個別に取り組んでいる事例はあります。著名な服飾デザイナーや有名な建築家に頼む方法、業界内での公募など発想は膨らみました。

当連合会では、東京・新宿のデザイン専門学校・東京モード学園の学生と一緒に「建設業を考えながらユニフォームをデザインしてみよう」ということに落ち着きました。これが結果的に、業界外を巻き込んだ取り組みになったことは、非常に大きな意義がありました。

■ オリエンテーション

プロジェクトではまず、2017年7月10日に東京モード学園で、学生に対するオリエンテーションを開催しました。

当連合会からプロジェクトの概要及び建設業界を説明するとともに、本プロジェクトへの賛同を得たユニフォームメーカーのミドリ安全(株)からユニフォームデザインの基本(ユニフォーム着用による心理的メリット、身体的メリット)などを説明しました。続いて、実際に3種類のユニフォームを着た学生3人を登場させ、ボールペンや野帳など持ち物も説明して、学生にイメージを膨らませてもらいました。



オリエンテーションの様子



ユニフォームの説明

学生からは、「ポケットがこういったところにあるのか」「ペンなどはそのままさせるようになっているのですか」「ニッカポッカタイプではなくても良いのですか」「工事現場での視認性の向上と書いてあるのですが、これは具体的にはどういったことですか」との質問が出され、関心の高さとその後の提案に強い期待感を抱きました。



質問する学生

■ 最終審査

学生は、東京モード学園が取り組む「産業界との連携」というテーマのもと、授業の一環としてデザイン案を作成しました。夏休みをはさんだこともあり、メンズ部門 250 点、レディース部門 247 点の計 497 点の作品の提出がありました。



審査委員の構成は、行政、デザイン関連、服飾関係及び建設業界関係者です。

- | | | |
|----------------|---|----------|
| 【審査委員長】 | ● 公益社団法人日本サインデザイン協会 会長
(株)KMD代表取締役 クリエイティブディレクター | 宮崎 桂 氏 |
| 【審査委員】 | ● 国土交通省 建設流通政策審議官 | 青木 由行 氏 |
| | ● 一般財団法人建設業振興基金 理事長 | 内田 俊一 氏 |
| | ● エムシーアパレル株式会社 デザイン企画部取締役 部長 | 佐古 かがり 氏 |
| | ● 一般社団法人長野県建設業協会 会長
全国建設業協同組合連合会 副会長 | 藏谷 伸一 氏 |

第1次審査として、メンズ部門・レディース部門各 6 作品の計 12 作品を選定し、11 月 24 日、東京モード学園において最終審査と表彰式を開催しました。

冒頭、青柳剛会長が「安全で作業しやすいことはもちろん、おしゃれな作業着だと思えるユニフォームを着られるようになれば、もっと楽しく働くことができそうだ」と挨拶をしました。

また、審査委員の青木由行国土交通省建設流通政策審議官は「このプロジェクトのコンセプトを見て、新しい建設業の姿はどんな感じだろうか、と課題に向き合ってくれたことがうれしい。建設業に新しい風を吹かせてほしい」と強い期待の言葉を述べられました。

最終審査では、1次審査を通過した 12 人全員が作品のプレゼンテーションを行いました。



青柳剛会長



青木由行国土交通省建設流通政策審議官



学生によるプレゼンテーション



審査員との質疑応答

審査の結果、各部門の最優秀賞 1 名ずつと各部門優秀賞に 2 人ずつの計 6 名（作品）が選ばれました。

メンズ部門

- 最優秀賞 森 美哉子 さん
- 優秀賞 荒木 絵利加 さん
- 優秀賞 唯野 礼菜 さん

レディース部門

- 最優秀賞 鈴木 茜理 さん
- 優秀賞 石神 りさ さん
- 優秀賞 榊 莉奈 さん



最優秀賞

優秀賞

表彰式

最優秀賞と優秀賞の受賞者それぞれにトロフィーと賞金のほか、当連合会の正副会長から各県のゆるキャラや名産品を渡したことで、会場の盛り上がりが頂点に達しました。最後に最優秀賞の森さんは「プレゼンテーション後の質問の際に話していた美術大学に通っていた時の溶接の授業の経験は、実は少し苦手だったが、このようなことでお役に立てて頂けてとってもうれしい」、鈴木さんは「私が左利きということもあったので、アシンメトリーのデザインでこのような賞を頂けて、本当にうれしい」と喜びの言葉を述べました。



トロフィーの授与



受賞者（前列の6名）

■ ユニフォームの製作過程 【協力:ミドリ安全・エムシーアパレル】



打合せ風景



パターン作成



資材準備



トワロチェック



縫製



完成品のチェック

■ 試作品の製作に際して

受賞6作品はアイデアにあふれたデザインなので、作品製作において手探りの部分もたくさんありました。

デザインに合った生地や副資材の選定、安全性や機能性を遵守しつつもステージに上がった時の作品の見栄えなどを考慮しました。

完成まで試行錯誤をしながらトワロチェックを重ねました。

■ 発表会・デモンストレーション

2018年2月15日、東京モード学園において「自信と誇りを着る」をテーマに発表会・デモンストレーションを開催しました。

冒頭青柳剛会長より「身のまわりからの働き方改革としてスタートした。建設業は変わっていきそう、楽しく働けそうというメッセージが建設業界全体、国民に発信されるのを期待する」と述べました。また、来賓出席した毛利信二国土交通事務次官は「建設業には処遇や労働環境の改善だけではなく、イメージアップも求められている。デザイナーを目指す皆さんの力で建設業の“色”を変えてほしい」との挨拶がありました。

発表会では、学生モデルが音楽に合わせランウェイを歩いたり、藏谷伸一副会長の依頼で安全带をつけたりと和やかな雰囲気の中で行なわれ、また、製作にあたったミドリ安全(株)の佐古かがりデザイナーによる製作過程の説明なども行いました。実際のユニフォームを前に、デザインをした学生からは「ディテールまで再現していただきありがたい。作り手に伝わる作品が大事だと実感した」と喜びを語りました。



毛利信二国土交通事務次官



安全带の装着



受賞作品のユニフォームを着用した学生モデル

■ ユニフォームプロジェクトを終えて

今回のプロジェクトでは、今まで建設業界にあまり接点のない東京モード学園とタッグを組みました。

最終審査において、審査委員の藏谷伸一副会長は、一次審査通過した学生に対し、「今回のデザインで建設現場を見たり、関係者に話を聞いたり、ネットで調べたりした人」と問いかけた際に、ほぼすべての学生が挙手しました。これは、これまでの人生でほぼ建設業に関わりがなかった学生が、少しでも建設業に向き合った証拠と言えます。

審査委員の内田俊一建設業振興基金理事長は、「建設業界に関わる者にとって、一番大きな仕事は、若い人たちにもう少しこの仕事に注意を向けてもらうこと。ユニフォームプロジェクトは、おそらく日々働いている姿をしっかりと見ていただく若い建設業の職人さんたち、あるいは技術者たちが感じている誇りをユニフォームという形で表に見せてあげる作業なんだと思った」と話され、また、発表会では、「働く技術者や職人達への熱い思いをユニフォームに込める、今回の取組みが社長さん達にそう考えてもらうきっかけになれば」と述べました。

これらの言動が、まさに当連合会が目指した「業界外の人を巻き込む」活動であり、その実践になったと実感しました。



当連合会正副会長と受賞作品のユニフォームを着用した学生モデル

■ 今後の展開

完成したユニフォームは、当連合会の会員組合や全国建設業協会を通じて情報提供を行います。

プロジェクトの実施により、業界内外を問わず、多くの方に建設業への関心及び理解が進んだように感じられ、引き続き、当連合会の意見を集約し、建設業界のイメージアップを図ります。

発行・監修

〈国土交通大臣（建設大臣）認可〉

全国建設業協同組合連合会（全建協連）

〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-5-1 東京建設会館 4F

TEL 03(3553)0984 FAX 03(3553)0805

Mail jimukyoku@zenkenkyoren.or.jp

http://www.zenkenkyoren.or.jp/



この冊子は環境にやさしいFSC®森林認証紙を使用しています。